

就職のきっかけは、親戚に重症心身障害の方がいたこともあり、身近な障害者が重症心身障害だったことだなと感じます。就職したのはいいものの環境も大きく変わり、私自身、「このままやっていけるかな…」と不安を抱えながらの1年目を過ごしました。ですが、1年目も終わるころには利用者との関係も少しずつ出来てきたからか楽しく感じる場面も増えました。

私の中で、印象に残った事は「そんなに頑張らんでいいよ」と先輩に言われた事です。1年目という事もあり、無意識的なのか意識的なのか力が入り過ぎていたんだと今さらながら感じています。先輩にそういわれたこともあり、そこからはだんだんと力も抜けていき、無理をすることなく仕事をするようになり、気持ち的にも前より穏やかな状態で仕事ができているかなと個人的には思っています。

来年度には、5年目になり異動やチューター等の環境の変化が起こるのかなとすでに感じています。自分の心身の体調にも気を付けながら楽しく仕事ができたいいなと思っています。



小川 琴音
生活支援員・4年目
びわこ学園医療福祉センター草津



鵜飼 麻
生活支援員・11年目
びわこ学園医療福祉センター野洲

2010年にびわこ学園に就職し、有難いことに病棟が変わることなくお世話になっています。その間に結婚し、産休育休を明けて今は育児時短勤務となり、自分の変化を利用者に見守っていただき、育ててもらってきたなと思います。また、私自身も利用者の重度高齢化による身体的、生活の変化をみてきたのかなと思っています。

これからも岡崎先生の「本人さんはどう思てはるんやろう」という言葉を原点に、昔と現在、未来の利用者の姿を想像し、寄り添った支援が出来るようにしたいです。また、新人の頃と変わらないような気はしますが…この人と一緒にいると居心地が良いな、楽しいな、どんなことしてくれるかな と思ってもらえるような人になりたいなと思っています。



近藤 牧央
生活支援員・6年目
知的障害児者地域生活支援センター・さくらはうす

15年以上エンジニアの職についていた私がびわこ学園に入職してから今年で6年目となりました。元職のキャリアを生かせる就職活動の繋ぎとしてアルバイト気分で「ケアホームともの」で生活支援員としてたくさんの学園の職員や個性豊かな利用者さんと同じ時間を過ごしているうちにすっかりびわこ学園の世界に巻き込まれてしまい現在に至ります。振り返って見れば利用者さんとのように接してよいのか全く解らず関わっていると、「嫌!」「他の人に代わってよ」と応えられたこともありました。そんな時に教えられた言葉が「全部利用者さんが教えてくれるよ」の先輩の言葉でした。あれこれ悩みながらも一緒に笑い、ともに過ごしているうちに「おーい近藤さーん」「早く来てよー」等呼ばれているうちにお互いが元気を貰っていることに気が付きました。これからも悩みながら、笑いながらこの場所に居たいな、と思っています。



大森 賢
生活支援員・4年目
びわこ学園障害者支援センター・ケアホームともの

びわこ学園で働き始めて早5年が経ちました。

就職氷河期世代真っ只中の私としては、先の見えない自分の人生にひと筋の光が差し込んだように感じられ、不慣れた介護の現場ではありつつも毎日学びのつもりで働かせていただいております。利用者さんの為に粉骨砕身、といった御大層な事を申し上げるつもりもありませんが、日々業務を続けていく中で利用者さんと触れ合いながら自分自身も少しずつ見えてきた変化を実感しております。自身を取り巻く環境下で、職員に恵まれ、利用者さんに恵まれ、もっと早くこの仕事にたどり着けていたら、と悔やんでなりません。自分で介護の仕事に向いていると思ったことはありませんが、今も続けていくことが出来ているのは周りの人のお陰だと感謝の気持ちを忘れず、これからも精進を重ねていく次第でございます。